

TC2.1 都市部と郊外部のアクセシビリティ とモビリティのための道路

委員	： 遠藤 玲	（日本大学工学部理工学研究所上席研究員）
委員	： 高柳 百合子	（富山大学学術研究部都市デザイン学系准教授）
連絡委員	： 矢島 隆	（東日本旅客鉄道会社顧問）
連絡委員	： 福元 正武	（都市局街路交通施設課街路交通施設企画室長）
若手技術者	： 萩原 剛	（計量計画研究所交通・社会経済部門）
本省窓口	： 福元 正武	（都市局街路交通施設課街路交通施設企画室長）

TCチェア（イタリア）	： Andrea SIMONE
TCセクレタリ（南アフリカ）	： Izak VAN DER LINDE
TCセクレタリ（フランス）	： Sandrine ROUSIC
TCセクレタリ（スペイン）	： José DEL CERRO GRAU

TC2.1に関連する日本の道路施策の記述とキーワード

2040年道路政策ビジョン

- 1. ② マイカーなしでも便利に移動できる道路
 - モビリティハブ、交通手段のシームレスな利用、集約型ターミナル
- 1. ④ 行きたくなる、居たくなる道路
 - まちの中心となる道路を人中心の空間として再生
- 2. ⑤ 世界に選ばれる都市へ
 - 都市内の通過交通の排除、道路ネットワークの空間再配分、モビリティ・ハブの整備、駐車スペースの転用等により、自動運転やMaaSに対応した新しい都市交通システムが実現
- 3. ⑨ 道路交通の低炭素化
 - 電気自動車や燃料電池自動車、公共交通や自転車のベストミックスによる低炭素道路交通システム
 - 安全で快適な自転車利用環境の整備

TC2.1に関連する日本の道路施策の記述とキーワード

WISENET2050

- 交通モード間の連携強化
- 道路空間の再配分

道路におけるカーボンニュートラル推進戦略(骨子)

- ② 低炭素な人流・物流への転換
 - 自動車による輸送を代替できる部分については、低炭素な移動手段への転換を促進
 - 低炭素な交通手段を選択できるよう、自転車通行空間の整備等のハード整備と、利用促進のためのソフト施策を両輪として進展
 - モビリティハブ等の交通結節拠点の整備
 - 自転車通行空間の整備の推進
 - 快適な歩行空間の整備
 - 生活道路の人優先の通行空間の整備
- ③ 道路交通の適正化
 - 場所に応じた適正な移動を促進(ゾーン30プラスによる生活空間と幹線道路との適切な機能分化を推進)

TC2.1の活動内容と道路施策のキーワード

WG1 都市部および都市周辺部における交通モード間の連携

- 交通モード間のよりよい連携と道路空間やマルチモーダル交通センターに関する新しいパラダイムを通じて、自動車交通、渋滞、温室効果ガス排出を削減するとともに都市と都市周辺地域の公平性を確保する。

道路施策のキーワード

- 自動運転やMaaSに対応した新しい都市交通システム
- 公共交通や自転車、徒歩等のベストミックスによる低炭素道路交通システム
- 低炭素な移動手段への転換を促進
- モビリティハブ、交通手段のシームレスな利用、集約型ターミナル
- 道路空間の再配分

TC2.1の活動内容と道路施策のキーワード

WG2 都市部車両進入規制(UVARs)

(混雑課金ゾーン(road pricing)、歩行者専用ゾーンなど)

- 低排出ガスゾーン、歩行者専用ゾーン、混雑課金ゾーンなど、都市における車両通行規制の様々な解決策について検討する。
- UVARは、マルチモーダルソリューションとともに導入すればより効果的と考えられる。

道路施策のキーワード

- 都市内の通過交通の排除
- 道路交通の適正化
- 生活空間と幹線道路との適切な機能分化

TC2.1の活動内容と道路施策のキーワード

WG3 混雑する街路や利用者が多い交通インフラにおける交通弱者のモビリティ確保

- 通行頻度の高いインフラの交通・群衆管理について、都市部における安全性の具体的な側面を扱った2点に焦点を当てて検討する。(イベント前の交通・群集管理、道路インフラ(優先レーン、自転車道、歩道)との関係におけるマイクロモビリティ利用者の交通安全)
- 公共交通機関(バス、路面電車など)、大型輸送機関、自動車輸送機関に直面する交通弱者(新たな移動手段を含む)を対象として、安全な道路インフラを改善する新しい方法と新しいガイドラインを、いくつかの特定の条件下で評価する。

道路施策のキーワード

- 快適な歩行空間の整備
- まちの中心となる道路を人中心の空間として再生
- 道路ネットワークの空間再配分

日本のミッション

- 多様な交通手段との密接な連携の効果を、自動車交通の削減による渋滞緩和と人口密度によるモビリティ・アクセシビリティ格差の改善の両面から検討する。

今タームの取り組み方針

- 日本のミッションと重なるWG1の活動を中心として、WG2についてもWG1に関係することから積極的に取り組む

目指す成果

- 新たなモビリティを考慮したマルチモーダル施策のガイドラインの検討(地域特性に応じた検討)
- 海外における街路上のハード・ソフト両面からの車両進入規制の事例収集

3. 活動状況と今後の予定

2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)
◎2月 キックオフミーティング (仏) ●10月 (スイス)	●4月 (ルーマニア) ●9月 or 10月 (タンザニア)	◎3月 冬季道路会議(仏) ●9月 or 10月 (メキシコ)	◎10月 世界道路会議(カナダ) ●3月 or 4月 (未定)
2.1.1	Literature Review 実施中(若干遅れている)	Collection of Case Studies	Briefing Note
2.1.2	Literature Review 実施中(若干遅れている)	Collection of Case Studies 実施中	Briefing Note
2.1.3	Literature Review		